

令和6年度事業計画

令和6年4月1日～令和7年3月31日

当法人は、昭和39年1月の創設以来、日本の文学・哲学・教育・美術等の各分野に多大な影響を与え、東洋の精神文化の基幹をなしてきた禅及び禅文化を、総合的に研究し、その成果を普及して、広く世界の人類文化に貢献する事業を展開してきた。

令和6年度もその理念に基づき以下の事業を遂行する。

I. 禅文化普及事業（公益目的事業）

〈1〉調査・研究活動

1. 中国禅宗史・禅語録研究班

当法人は、設立以来語録研究班を組織し、禅文献のうち最重要とされる中国唐宋代の禅語録を継続して会読している。これらは禅の語録を、唐代・宋代の中国語の口語研究を踏まえ、語彙や文体の変遷と思想史の脈絡にしたがって読解してゆくものである。その成果は、唐宋の思想史解明に新たな観点を提供するものとなり、また、唐宋の口語研究に寄与するものとなる。

参加メンバーは仏教学、哲学、文学、中国語学などの研究者や学生、一般からの参加者などで構成され、学際的な雰囲気の中で研究が行われている。

＊各研究会の概要は7頁に記載。

①唐代語録（『祖堂集』）研究会〔班長 西口芳男〕

今年度は巻13・報慈和尚章第31則（全34則）より始め、龍潭和尚章（全9則）、福先招慶和尚（全31則）へと読み進める。研究成果は『禅文化研究所紀要』に発表。隔週に開催。

②「神会語録」研究会〔班長 西口芳男〕

班員による読解はほぼ終了しており、西口が整理中。

③「景德伝灯録」研究会〔班長 西口芳男〕

今年度は巻17・吉州南源山行修（2則）、洪州泐潭明禅師（4則）、吉州秋山和尚（1則）、洪州泐潭延茂禅師（2則）、洪州鳳棲山同安院常察禅師（2則）、洪州泐潭匡悟禅師（4則）、吉州禾山無殷禅師（12則）、洪州泐潭牟和尚（2則）、台州六通院紹禅師（4則）…を読み進める。隔月に開催。

参加メンバーは、花園大学の教員や院生、他大学の教員や研究員など。

④俗語言研究会〔担当：衣川賢次・西口芳男〕

禅宗研究の推進を目標とし、禅宗の言語、禅宗の歴史と思想、禅宗文献の研究を主題とする論文、書評等を掲載する。日本側は監修として参画。刊行の遅れている『俗語言研究』第7号（復刊第2号）の刊行を目指す。

2. 禅宗經典研究班

禅文献に関わる經典類について独自の研究を進めると共に、臨済宗で常用される經典についても、現代に即した内容や形態は何かを究明し、一般に普及する方策を考える。

来年度に向けて、法式の基本作法を映像に収め配信することを検討する。

3. 哲学研究班〔幹事 森 哲郎〕

「西田哲学研究会」は、「一般者の自覚的体系」の本文を終了して、最後の「総説」に入る予定である。最近は、京大や阪大の大学院生も増え、活発な議論と講読を継続している。年に4回で、オンラインも兼ねて、参加者は40名ほど。

「西谷研究会」は、長岡徹郎氏（阪大助教）が幹事となり、新たに若手研究者向けに、「宗教哲学序論」からの講読研究を開始して、目下「悪の問題」に入る予定である。上田先生推薦の「夢中間答」の輪読も兼ねて継続している。参加者は30名ほど。年4回でオンラインはしていない。尚、大蔵会の再開希望もあるので検討中である。

4. 日本禅宗史・禅語録研究班

日本の伝統教団を形成した祖師たちの伝記や語録を体系的に整備し、現代的に解釈することを目的とする。

① 江湖開山等語録研究〔担当 藤田琢司・能仁晃道〕

臨済宗各派寺院の協力により、開山・中興開山等が残した語録類を整理し、訓注を行う。本山以外の寺院に残る語録類の訓注は、殆どなされておらず、日本禅宗史上重要なものが多い。今年度は、主に妙心寺派正法寺の勸請開山梅天無明禅師の語録の編集作業を行う。

② 『延宝伝灯録』研究〔担当 藤田琢司〕

日本の禅僧・居士ら約千人の伝記『延宝伝灯録』（卍元師蛮撰述）の訓注作業を行なう。本書は江戸初期までの日本禅僧の伝記の集大成として重要な文献である。しかし難解かつ四十一巻という大部であるため、いままで訓読などが刊行されたことはなかった。

今年度も注をつける作業を継続、令和6年度末に刊行を予定。

5. マルチメディア調査及び公開

禅文化に係る印刷物をはじめ、音声、映像、ホームページなど、多様なメディアを通して現代人に禅や禅文化をわかりやすく伝える方策を調査研究し、情報公開していく。

DVD『禅僧が語る』（山川宗玄老師）と、花園大学仏教学科と共同の、『宗学概論』改訂版の刊行。臨黄各派本山の宝物を紹介する『禅語こよみ』を刊行する。

6. 調査研究・人材育成の場の提供

禅に関わる人材発掘・育成に繋げるため、臨黄各派の専門道場師家が集まる「師家の集い」を布石として、情報交換を進めてゆく。花園大学とも情報共有し、必要な情報公開をする。

〈2〉資料収集・資料公開活動

1. デジタルアーカイブス

臨済宗・黄檗宗寺院において大切に遺されてきた禅仏教や寺院に関する文化財を、デジタル化して広く国内外に公開（紹介）する事業。

これらのアーカイブを構築することで、多様な学術研究を支えるための基盤作りを行ない、その活用を推進していく。

①デジタルアーカイブス（禅文化財目録整備事業）

公開中の「禅文化財 COLLECTION」サイトへ、当法人所蔵の学術資源の追加を順次行つてゆく。

②寺宝調査活動

令和4年までに請け負った調査のデータ化と整備を行っている。本年中に、調査済み寺院へのデータの納品を完了する。

2. 資料の収集・整理・公開

①資料室所蔵品の整理・公開（利用）

当法人がこれまで収集してきた蔵書のうち約1万冊の検索と、一部であるが資料画像の閲覧も可能となっている。現在、閲覧できる資料点数は385件で、順次増やしてゆく。

蔵書には、他の図書館や資料館にはない貴重なものが含まれているが、これらの閲覧は、従来通り内外の研究者や禅に関心のある一般人に無料で開放する。

②黒豆データベース公開

当法人がこれまで電子テキスト化してきた禅宗文献のうち、訓注本として発刊してきたものの原文データベースを、簡易検索システムと共にホームページ上で一般に無償公開中で、随時、データファイルを追加する。

③問い合わせに関する回答

当法人に寄せられる、寺院・団体・個人を問わず様々な問い合わせに対応する。墨蹟の解説や偈頌の添削などは、日数を要するため、原則、賛助会員のみの特典とすることを検討中。

〈3〉広報・普及活動

1. 季刊『禅文化』の刊行

季刊『禅文化』は、禅の思想と生活及び文化・美術などに興味を持つ読者のための教養誌として刊行を続けている。今年度は、272号～275号を発行する。272号は「南天棒」、273号は「般若心経」の特集を予定している。

2. 研究成果の刊行

○禅宗史・禅語録研究班の成果

①『禅宗語録入門』（仮） 小川隆 （令和6年10月刊行）

②『延宝伝灯録』 藤田琢司 (令和7年3月刊行)

【上記①②は60周年記念出版】

○マルチメディア研究班の成果

①DVD『禅僧が語る』 山川宗玄 (令和6年4月刊行)

②『文字からはじめる禅』宗学概論改訂版 (令和6年7月刊行)

②『2025年禅語こよみ』 (令和6年9月刊行)

③『世語を楽しむ』 重松宗育 (令和6年刊行予定)

○その他

①禅文化研究所紀要38号 *電子版 (令和7年3月刊行)

○電子書籍・オンデマンド出版

3. 公開講義等

①『趙州録』講義〔講師：衣川賢次〕

趙州從諗和尚（778～897）の問答の記録である『趙州録』を読むことを通して、唐代禅の対話精神にふれ、唐代禅思想表現の精華を知るための講義。一般社会人や花園大学
院生らが参加。毎週火曜日、1時～2時30分開催。

4. ホームページの運営とコンテンツの充実

①禅文化研究所ホームページの運営とコンテンツの充実

5月にホームページのリニューアルを完成し、公開する。ショップシステムとの連動
化で売上管理の合理化を進める。また、FacebookやTwitterへも更新情報等シェアして
いく。【60周年記念事業】

②臨黄寺院ネットワークの運用協力

臨済禅を内外に発信する公式サイトである臨黄ネットの情報更新及びコンテンツ制
作を行う。リニューアル公開は5月。

5. 公開講演会等

①禅文化夏季講座（新規）

9月1日（日）午後開催で、仏教伝道教会BDK会議室を予定。東京における禅文化研
究所の普及活動の一環として実施する。募集100名（有料）。

②サンガセミナー

今年度も9月以降に、僧侶・一般向けのセミナーや特別拝観などを実施する。

③理事長特別講座「公案禅・坐禅を学ぶためのウォーミングアップ・トレーニング」
（新規）

理事長を講師に、公案禅・坐禅を学ぶためのウォーミングエクササイズなど、人数限
定の特別講座を年数回の予定で実施する。

④賛助会員と所長との禅の旅（仮称・新規）

賛助会員を対象にした企画。第1回は10月17日（木）に平林寺で開催予定。

6. 広報・普及

研究成果としての刊行物を、各種媒体を通して広報し、直販、寺院売店、書店、美術館

などの各ルートを通じて普及促進する。紙媒体ではコストがかかり情報の鮮度も落ちるため、今年度もメールマガジンの発行、Twitter や Facebook などを利用して、より広範囲に普及する。昨年より所長による You Tube の発信を行っており、今年度も継続する。

7. 創立 60 周年事業 (新規)

創立 60 周年記念式典を 10 月 9 日 (水) に行う。禅文化賞授賞式、記念講演などを予定。記念出版および禅文化史の発行やサイトリニューアルなどが周年事業となる。

※詳細は 5 月理事会で発表する。

II. 収益・共益等事業

〈1〉ソフト開発・販売等事業

1. 宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」のサポート

「財務管理」「法務管理」「会費管理」「寄付金管理」の各システムを発売中。

「擔雪Ⅲ」は、開発やサポート体制について人員及び経費の目処が立たず開発中止を検討。現在の擔雪Ⅱについては、インターフェイスも古く、バージョンアップも限定的なため、早期の販売の停止を検討中。販売停止後、5 年間サポートし、ユーザーにはできる限りのケアをする。また、「他社への乗り換え」を推奨しそのサポートを行う。業者からの紹介手数料も考慮する。

2. オーダー型宗務所管理システムのサポート

以下 12 の本山や寺院などの構築済みシステムの機能追加や運用をサポートする。

東福寺派／南禅寺派／建長寺派／佛通寺派／天龍寺派／妙心寺派布教師会
妙心寺派白隠さんの会／曹洞宗宗務所（京都府・福井県）／真言宗／青蓮院
永保寺墓地／藏春寺霊園

3. 出版物頒布

他社から委託を受けた出版物をホームページやDMなどで案内し頒布する。

〈2〉共益事業

1. 寺院その他委託刊行

- | | | |
|----------------|---------|----------------|
| ① 『空華室日記』第 1 巻 | 大徳寺派黄梅院 | (令和 6 年度刊行予定) |
| ② 『大雅窟遺風』 | 長岡禅塾 | (令和 6 年度刊行予定) |
| ③ 『梅天禅師法語』 | 妙心寺派正法寺 | (令和 7 年 4 月刊行) |
| ④ 『伊達家の歴史』 | 東福寺派満勝寺 | (令和 7 年度刊行予定) |

2. 引導法語データベースの公開

妙心寺派教学部と共同で制作した引導法語データベースについて公開中。

3. 臨黄合議所事務局

臨済宗・黄檗宗各本山の合議機関である臨黄合議所からの事務委託を行う。

- ① 臨済宗黄檗宗宗勢調査
- ② 「臨黄会報」の発行（年2回）。
- ③ 臨黄互助会の促進。
- ④ 臨黄教化研究会の実施。
- ⑤ 会議等の事務処理。

4. 日中臨黄友好交流協会

今年度も中国側から依頼があれば情報提供を実施する。

中国禅語録研究班の概要

①唐代語録（『祖堂集』）研究会

『祖堂集』は『景德伝灯録』の編集に先立つこと52年、完存する禅宗灯史の書としては現存最古のものであり、現代の禅に直結する唐五代の禅の資料の古層をなすものとして貴重である。北宋初期の当時の最高の知識人の刊削裁定を経た『伝灯録』に比べて、野趣に富んだ生の資料を提供してくれるものであり、口語研究の資料としても、近年、とみに注目を集めている。既に50年前、この研究班では、入矢義高・柳田聖山の指導のもとに読まれ、当時の原稿によって『訓注祖堂集』（国際禅学研究所報告第8冊、2003年）として当時の成果が発表されている。今回は『祖堂集』を成立させた福州の雪峰教団の禅師をメインにして深く読み進め、『祖堂集』成立の背景を探ることを目的とする。

②「神会語録」研究会

敦煌写本禅宗文献の中で最も重要なものの一つに神会関係のものがある。神会の語録の校訂本には、つとに、胡適氏、鈴木大拙氏のものがあるが、敦煌博物館本やいくつかの断片写本が出揃うと、従来の校定には限界のあることがわかり、新たな定本、正確な訳文、詳細な注釈の作成が待たれていた。本会ではこの点を重視した読解を進めてゆく。

③「景德伝灯録」研究会

禅語録中、最も基本的かつ重要な文献である『伝灯録』全30巻を、近年の日中両国の中国口語史研究の成果を踏まえて、千八百の古則公案といわれる問答の一つ一つの意味を解明することに重点を置き読解を進めている。